

研究対象者への通知又は情報公開文書

東京理科大学では、以下の研究を行います。本研究の対象者に該当する可能性のある方で研究への参加を希望されない場合、又は研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、以下の問い合わせ先にお問い合わせください。

1. 研究の名称

熱中症予防のための効果的な身体内部冷却方法の検討

2. 研究の目的

熱中症を予防する方法として、アイススラリー（氷と水の混合物）を摂取することで身体を内部から冷却する方法が効果的であるという研究結果が報告されています。しかし、氷の形状による飲みにくさ、摂取する量の多さなど解決しなければならない課題も多くあり、効果的なアイススラリーの作成が求められています。そこで本研究では、様々な量、種類のアイススラリーを摂取したときの直腸温度（身体内部温度）、心拍数、飲みにくさの感覚量などを測定し、より効率的な身体内部の冷却方法を確立することを目的とします。

3. 研究の対象者

男性、20～30歳

4. 研究の方法と期間

測定機器を装着後、15分程度の安静時間を経てアイススラリーを摂取していただきます。その後30分程度測定時間を取り実験を終了します。（1時間程度）

※摂取していただくアイススラリーは、市販のスムージーやシャーベット状飲料に類似したものであり、日常生活で摂取する氷菓を超えるような胃腸への負担は一切ございません。そのため、健康被害は限りなく少ないと考えられます。しかし、普段から氷菓などによって胃腸が不調になる方は、同様の症状が起こる可能性があります。

・協力していただく内容

1時間程度の実験時間中にアイススラリーを摂取していただき、直腸温度、心拍数、VAS（感覚量の測定）を実施します。測定に際して、水循環スーツを着用していただきます。これは気温や湿度などの外部環境の影響を一定に保ち、それらの外乱が実験データに影響することを防ぐためです。水循環スーツ内には40℃（お風呂程度の温度）のお湯が循環されており、着用中は適度な温熱感覚を受けることになります。

・提供いただく試料・情報について

氏名（回答）、直腸温度（測定機器）、心拍数（測定機器）、VAS（回答）

・研究の期間 承認後～2020年3月31日

※この研究は通常の診療を超える医療行為を伴う研究ではありません。

5. 提供いただく試料・情報の利用目的

本実験で提供いただく試料・情報は、「熱中症予防のための効果的な身体内部方法の検討」の研究にのみ利用し、他の研究機関に提供する可能性はありません。

6. プライバシーの保護について

- ・ 個人情報の内容

氏名

- ・ 匿名化の方法

試料・情報から個人を識別できる情報を削除し独自の符号を付し、どの研究対象者の試料・情報であるか直ちに判別できないよう加工します。

- ・ 個人情報及び対応表の管理方法

外部と切り離されたPCを使用して、外部記憶媒体に保存し、鍵をかけて厳重に保管します。

7. 研究の資金源や利益相反に関する状況

(1) 研究資金

この研究の費用は、東京理科大学実験実習費などから支出されます。

(2) 利益相反について

この研究には、企業や団体は関与しません。企業等との利害関係はないため、利害の衝突によって研究の透明性や信頼性が損なわれるような状況は生じません。

8. お問い合わせ先・研究の実施体制

研究責任者：東京理科大学 理工学部教養 准教授 柳田 信也

研究実施機関の研究協力者：福井 瀬生

連絡先：yanashin@rs.noda.tus.ac.jp